

## (変わる安全保障 防衛大綱改定) サイバー空間、米朝攻防 ウイルスで世界混乱、米がハッカー訴追

2018年11月18日05時00分



米司法省による北朝鮮ハッカーの起訴状。容疑者が関与した犯罪や、その詳細な手口、映画会社を攻撃した際の骸骨などが現れるパソコン画面も掲載されている

「あなたの重要なファイルが暗号化され、アクセスできなくなりました。私たちの解読サービスなしであなたのファイルを回復することはできません」

150カ国以上で猛威を振るった史上最大規模の身代金要求ウイルス「ワナクライ(WannaCry：泣きたくなる)」。メールなどから感染すると真っ赤な画面が現れ、3日以内に300ドル(約3万4千円)をビットコインで払うよう要求。文書や画像などのファイルが開けなくなる。

昨春広がったウイルスは、世界で23万台以上のコンピューターに感染。日本でも日立製作所などが被害を受け、英国では千台以上の医療機器が制御不能となった。

米司法省は今年、ハッカー集団の一人の男を訴追した。

170ページ超の起訴状によれば、男は北朝鮮のハッカー集団「ラザルス」所属のパク・ジンヒョク容疑者。北朝鮮政府によって雇われたプログラマーで、朝鮮人民軍偵察総局サイバー部隊「110研究所」傘下にある中国・大連の北朝鮮系フロント企業に配属された人物だ。米国がサイバー攻撃で北朝鮮の関係者を訴追するのは初めてだ。

男が関与したとされるサイバー攻撃は、「ワナクライ」だけではない。

2014年に北朝鮮の金正恩(キムジョンウン)朝鮮労働党委員長暗殺を題材にした映画「ザ・インタビュー」を製作したソニー・ピクチャーズエンタテインメントに激しいサイバー攻撃を仕掛け、コンピューター数千台を破壊。映画作品や俳優のプライベート情報も盗んだ。米防衛産業ロッキード・マーチンの高高度迎撃ミサイル(THAAD〈サード〉)担当者にもサイバー攻撃を試みていた。

さらに、バングラデシュ中央銀行のシステムを感染させ、8100万ドル(約92億円)を盗む「サイバー強盗」も実行。金の足どりはフィリピンで消えた。

米司法省は9月、パク容疑者の起訴を発表した。起訴の日付は6月8日。トランプ大統領と金正恩氏による初の米朝首脳会談の数日前で、会談を考慮して発表日をずらしたとみられる。

米連邦捜査局（F B I）のレイ長官は、起訴発表に合わせた声明で訴えた。

「本日の発表は、世界でのサイバー攻撃の背後にいる悪意ある輩（やから）や国家をあばき、やめさせるためだ」



安倍政権は年内の防衛計画大綱改定で、「サイバー強化」を柱の一つに据える。サイバー空間での各国の攻防が激しさを増すなかで日本も対策を急ぐが、課題も多い。

（編集委員・佐藤武嗣）

▼ 2面＝ルールなき応酬

---

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.